

— 修学院離宮 —

上離宮の隣雲亭



隣雲亭からの眺め



一二三石

上離宮の御成門を入り、目線を遮る大刈り込みの急な石段を登りつめる

と、隣雲亭という建物が待ち受けています。眼下には浴龍池や棚田を見おろし、遠くには洛北の山々や京都市内が眺望できます。

隣雲亭は標高約150メートルにある柿葺きの建物で、現在の建物は文政7年(1824)に再建されたものです。内部には床の間も棚もなく、目立った飾りは何ひとつない六畳の一の間と三畳の二の間があります。その北側には三方吹き放しの洗詩台と呼ばれる四畳分の板の間があり、木立の奥を流れ落ちる落差6メートルある雄滝の水音が心地よく響きます。建物背後には、六畳2部屋と八畳1部屋があり、これらは子供の者の控えの間として使用されていたところです。

深い軒下のたたきには、京都の賀茂川の黒石や鞍馬山の赤石を一個、二個組、三個組と規則的に配置して埋め込んであります。俗に一二三石と呼ばれています。



洗詩台

